



さらに親密な交流を約束

登別市・白石市・海老名市
トライアングル交流宣言調印式

11/5

写真は左から
小笠原市長
風間康静白石市長
内野優海老名市長

11月5日(金)、宮城県白石市で、『登別市・白石市・海老名市3市による「トライアングル交流宣言」に向けた合意署名式』が行われました。

登別市は、白石市と昭和58年に姉妹都市を提携し、以来物産やスポーツなどで交流を進めており、また、神奈川県海老名市とは、白石市の姉妹都市同士として交流を深め、今年5月には、消防自動車の寄贈を受けるなど、より親密な交流が図られています。

交流宣言は、この3市がこれまで以上に親密な関係を築き上げ、今後も経済や市民の交流を深めることを目的としています。

式では、戦国武将の衣装をまとった、小笠原市長、風間康静白石市長、内野優海老名市長が合意書に署名。今後のさらなる親密な交流を約束する握手を交わしました。

本調印は来年4月を予定しています。



▲貴重な作品を眺める来場者

国宝級の作品が
ずらり

ふくろう文庫特別展inのぼりべつ

10月25日(月)～31日(日)、ポスフル登別店で『ふくろう文庫特別展inのぼりべつ』(市主催)が開かれました。

会場には、横山大観の生涯にわたる代表作で全長40メートルにおよぶ『生々流転』や、武元直の『赤壁図』など、国宝級の作品の精密な複製品が展示され、ふくろう文庫代表の山下敏明さんは「現物を見るのが困難な中、これほど緻密に再現された作品を生で見られるというのは本当に貴重な機会ですので、ぜひよく観ていただきたい」と話し、訪れた方たちは熱心に作品を鑑賞していました。

10/25～31